

5月2日 復活節第4主日

使 13:43～52 黙 7:9～17 ヨハ 10:27～30

1. ヨハ

v.27 「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。」

教会は、復活のキリストの声を聞き分けることによって永遠の命を与えられた羊たちの群であることを、聖伝と聖書は代々にわたって教え続けて来ました。近代及び現代の教会がこの使徒的伝承に無関心となり、教会共同体の存在の意味をそれとは全く別なところに求めることによって、「今おられ、かつておられ、やがて来られる」(黙 1:4-5) キリストを人々から遠ざけて来たことは事実ですが、たとえそうであっても、また人々の耳がどんなに聞こえ難くなっているとしても、それでも教会の中で聖伝と聖書が沈黙することは決してなかったことを、21世紀の教会は神に感謝すべきです。第二バチカン公会議によって始まった典礼刷新は、キリスト者会衆を再びキリストの声に引き戻す方向づけを提示しました。21世紀は、この典礼刷新がいよいよその内実を具体化させる労苦と収穫の世紀となるように、私たちは期待したいものです。現代のキリスト者である私たちの課題は何よりも先ず、聖伝と聖書を通してキリストの声を聞き分けることにあるからです。

イエス・キリストは死者の中から復活して、すべて信じる者に永遠の命を与える救い主とされました。“キリストの声を聞き分ける”とは、この知らせ、この福音を信じることです。永遠の命とは、来るべき世の命のことで(ダニ 12:2)、復活のキリストが信じる人々に与えてくださいます(ヨハ 3:13-15)。それは私たちが神の国に復活させ、神の国を相続させる命であって、私たちのミサはこの約束の記念の祭儀に外なりません(ヨハ 6:53-54 参照)。

v.28 「わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。」

これが、私たちの教会です。

2. 使

ピシディア州のアンティオキアにおけるパウロとバルナバの宣教の報告を、使徒言行録は次のように記録しています。

v.48 「そして、永遠の命を得るように定められている人々は皆、信仰に入った。」

すなわち、使徒たちの宣教によってキリストの声を聞き分けた人々は、永遠の命を与えられた羊たちの群となったのでした。教会の誕生であります。

しかし、キリストの福音を信じない人々がいました。「永遠の命を得るに値しない者」(v.46) たちです。復活されたイエス・キリストについての証しを信じないのは、彼らがキリストの羊ではないからだ、ヨハネ福音書は説明しています(10:25-27)。彼らは教会に加え入れられませんでした。彼らは終わりの日に神の

国に復活する神の国の相続人とはなりませんでした。

福音が宣教されるとは、こういうことでもあります。教会は救われた羊たちの群であって、そこでは聖伝と聖書を通して使徒たちの宣教が継続されているのです。共にミサをささげる群である教会は、キリストの声を聞き分けることによって、これからもキリストの体を造り上げて行きます(エフェ 4:12)。

3. 黙

終末と神の国についての使信を、聖伝と聖書のあまり重要ではない付録のように考える人々が、現代の教会で多数を占めているように見えます。これは既に過去2世紀半ほどに及ぶ歴史的背景を持つ思想であって、その実態は教会の使徒的伝承を時代遅れの遺物として軽んじるものでありました。

現代カトリック教会の主日のミサで、典礼刷新によって「典礼文と儀式が示す聖なる事柄が明白に表現され」(典礼憲章 21) るようになり、朗読配分に従って聖書が朗読されることにより「神のこたばの食卓がより豊かに信者に供えられる」(典礼憲章 51) ようになっていることを、21世紀のキリスト者は深く感謝し、重く受け止めなければなりません。

ヨハネ黙示録は、教会の目標であり完成である神の国を証ししています。見者ヨハネが天の門を通過して見たものは、創世記の中で(15:5)神がアブラハムに約束された救済史の完成の場面でありました。

v.9 「この後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆が、白い衣を身につけ……」

彼らはだれで、どこから来たのか。その答えはただ一つであります。

v.14 「彼らは大きな苦難を通過して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。」

キリストの声を聞き分け、永遠の命を与えられた人々だけが、この救いの完成の日を迎えるのです。この神の国を相続する民が歴史の教会であり、この神の国の希望が、教会の存在の根拠なのです。

「この預言の言葉を朗読する人と、これを聞いて、中に記されたことを守る人たちとは幸いである。時が迫っているからである。」(黙 1:3)

ハレルヤ、アーメン。

5月9日 復活節第5主日

使 14:21～27 黙 21:1～5 ヨハ 13:31～35

1. ヨハ

私たちの救い主イエス・キリストは、私たちの罪のために死に渡され、復活して父なる神の栄光に入られました。教会はこのイエス・キリストの死にあずかる洗礼によって救いに入れられた者たちの群ですから、またキリストの復活の命にもあずかっており、私たちは将来の神の国を受け継ぐ約束に生きています。

この教会が、今朝再び、聖書を通して語りかける天上のキリストのことはを聞いています。

v.34 「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

近代の聖書解釈は通常、ヒューマニズムによって支配されて来たために、これを道徳的な教えとして読むことに慣れて来ました。「互いに愛し合いなさい」とは美しい道徳ではあっても、人々にとって最早「新しい掟」ではない。かつてイエスが弟子たちに教えられたときに、せいぜい画期的であったという程度の意味でしかない……と考えられて来ました。

しかし私たちは今朝、主日のミサの朗読配分の中で、このテキストを通して語られる天上のキリストのことはに耳を傾けます。それは、すでに私たちがよく知っているヒューマニズムの愛とは違う、「新しい掟」なのです。「わたしがあなたがたを愛したように」とは、単なる手本以上のもの、「その血によって贖われ、罪を赦され」(エフェ 1:7) た者たちへの、天上のキリストの呼びかけです。私たちは一般人としてではなくて、救われたキリスト者として、今朝キリストのことはを聞いているのです。

2. 使

使徒パウロの第一回伝道旅行は、ユダヤ人だけではなくて異邦人にも信仰の門が開かれるという結果を生みました。「異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて」(エフェ 3:6) 約束の神の国をユダヤ人と共に受け継ぐ者となったことを、このテキストは報告しています。「信仰に踏みとどまる」(v.22) とは、彼らがこの約束を共有する群として歩むことを意味しました。「教会ごとに長老たちを任命し」(v.23) と言われていることから、彼らが主日ごとに共にミサをささげる群となったことがわかります。

人が洗礼の秘跡によってこのような群に加え入れられることは、新しく生まれることであり(ヨハ 3:5-7)、「新しい掟」に聞き従う者となることでありました。教会が神の国の約束を共有する群であるために、天上のキリストは今も私たちに、「互いに愛し合いなさい」と呼びかけておられます。ヒューマニズムのためではなくて、将来の神の国を共に受け継ぐために、私たちは今朝再びキリストのことはを聞いているのです。

3. 黙

「新しい」という言葉は、私たちの神の救済史を特徴づけるキーワードです。見者ヨハネは天上におけるその完成の場面を、「すぐにも起こるはずのこと」(1:1)「今後起ころうとしていること」(1:19)として見たのでした。

v.1 「わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。」

“キリスト教の目的は、地上に神の国を建設することである”という、全く見当外れな夢を描いている人には、この救済史の「新しい」神の御業が理解出来ません。「互いに愛し合いなさい」という聖書の言葉をヒューマニズムとして解釈する人は、天地創造から始まり神の国で完成する神の救済史を理解することが出来ないのです。

しかし天上で玉座に座っておられる方は言われました。

v.5 「見よ、わたしは万物を新しくする。」

この救済史の「新しい」神の御業に与る私たち教会に向かって、天上のキリストが今朝「新しい掟」を語っておられます。神の国の約束を共有する群よ、「互いに愛し合いなさい」と。

ハレルヤ、アーメン。

5月16日 復活節第6主日

使 15:22～29 黙 21:10～23 ヨハ 14:23～29

1. 使

エルサレムの使徒会議は、パウロが異邦人教会で宣べ伝えている“イエス・キリストを信じる信仰”の正当性を巡って、紀元49年に開かれたとされます。ある人々がユダヤ教の律法の遵守を救いの必須条件であると主張したのに対して、使徒たちと長老たちが集まって議論しました。そして当時エルサレム教団の指導者であったペトロが、「わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです」(v.11)と述べたことによって、初代教会の使徒的宣教の明確な枠づけがなされたのでした。

使徒たちが宣教したキリストの福音と、これを信じて救われた人々の上に働く聖霊との深い結びつきが、教会を生み出し育てて行く原動力であったことを、聖書は証言しています。人は罪の赦しを受け、聖霊の賜物に与るために、使徒たちが宣べ伝えるキリストの福音を信じて洗礼を受けなければならないというのが、今日に至るまで変わる事のない使徒継承の教会の主張であります。

以上のことが明確にされた上で、エルサレム会議は次のように決議しました。

vv.28-29 「聖霊とわたしたちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めました。すなわち、偶像に献げられたものと、血と、絞め殺した動物の肉と、みだらな行いとを避けることです。以上を慎めばよいのです。健康を祈ります。」

使徒パウロは、後にフィリピの信徒への手紙の中で、次のように書いています。

「わたしは、こう祈ります。知る力と見抜く力を身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。そして、キリストの日に備えて……」(フィリ1:9-10)。

2. ヨハ

教会を導く聖霊の賜物は、キリストが私たちの罪のために死んで復活されたことによって、初めて訪れるようになりました。十字架の福音と結びつかない霊は、聖霊ではありません。また聖霊は復活されたキリストが父の許から送ってくださるものであって、キリストの福音を救われた人々に理解させてください。人間が元来持っている能力や可能性から何かを引き出す“世の霊”(Iコリ2:12)とは異なり、神の救いの秘められた計画を啓示するのは、「父が御子の名によってお遣わしになる聖霊」(v.26)であります。

いつの時代にも、教会が真にキリストの教会であり続けるためには、聖霊の賜物が必要でありました。ヨハネの手紙Ⅰは、「愛する者たち、どの霊も信じるのではなく、神から出た霊かどうかを確かめなさい」(4:1)と警告しています。現代世界のキリスト教も、神から出たのではない“世の霊”によって大いに混乱しています。私たちは歴史の教会の過去の戦いが生んだ遺産に感謝しましょう。ニケア・コンスタンチノープ

ル信条は、次のように明言しています。

「聖霊は父と子とよりいで、父と子とともに拝みあがめられ、……。」

3. 黙

キリストの福音は「神の国の福音」(ルカ 4:23)であることを、私たちは今朝再び聞かされています。地上の教会が将来の天の教会の反映であるという意味で、「実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」(ルカ 17:21)とされているにせよ、神の国は教会に約束された将来の完成であり目標であります。救われた人々が終わりの日に神の国を受け継ぐ保証として、神は「聖霊で証印を押されたのです」(エフェ 1:13)。神の国を受け継ぐキリストの花嫁である教会の将来の完成の姿を、見者ヨハネは報告しています。それは過去の物語りとしてではなくて、現代の教会の私たちに宛てられており、神の栄光に輝く将来の約束を保証するためにミサで朗読されるのです。この福音を私たちに理解させ、この福音に希望を置く教会を育ててくださるのは、聖霊の御業以外の何ものでもありません。

使徒継承の教会と共に働き、父と子と共に拝みあがめられる聖霊に、賛美。

ハレルヤ、アーメン。

5月23日 主の昇天

使 1:1~11 ヘブ 9:24-28,10:19-23 ルカ 24:46~53

1. 使

v.8 「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

キリスト教は、使徒たちの宣教から始まりました。宣教とは、イエス・キリストとその福音についての証言のことで、復活の主はこれを使徒たちに委ねて天に昇られました。そして天上のイエスは聖霊を送って、使徒たちの宣教と原始教団の形成を支え導かれました。新約聖書は、これらの宣教と使徒たちの言行を伝える、初代教会の文書群を集めたものです。

歴史の教会は、この使徒たちの宣教を世の終わりまで継続するために、使徒たちの後継者である司教たちを叙階し、司教に従属する司祭たちの助けによって、その使命を果たして来ました。天上のキリストは、この歴史の教会の歩みと共におられ、終わりの日の再臨を待ち続けておられます。

v.11 「あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」

2. ルカ

使徒たちの宣教の中心は、主イエス・キリストの死と復活によって実現した罪の赦しの福音であって、すべて信じて洗礼を受ける人々に救いをもたらします。

vv.46-47 「メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。」

その実現の歴史こそが教会の歴史であり、使徒たちは歴史の教会の宣教の最初の段階の証人でありました。やがて使徒たちの時代が終わっても、教会の宣教は終わりました。天上のキリストは聖伝と聖書によって、使徒たちの宣教をその後継者たちに受け継がせ、今日に至るまでこれを導いておられるからです。

福音書は、主イエス・キリストがユダヤ教の聖書解釈である「昔の人の言い伝え」を、人間の業であるとして拒否したことを伝えています(マコ7:1-13)。それに対して新約聖書は、唯一の正当な伝承として、使徒たちの宣教を保存し伝えました。それはこの宣教が人間の業ではなくて神の業であり、その背後には天上のキリストが立っておられるからです。

この使徒たちの宣教とは別な、人間が作り出した「ほかの福音」(ガラ1:7)を宣べ伝える人々が、いつの時代にもいました。近代のヒューマニズムは、復活して生きておられ、やがて来られるキリストが使徒たちに委ねられた宣教とは別な、人間の作り出した「ほかの福音」を次々と生み出して行くことに、大いに貢献したとすることが出来ます。使徒たちが受け、使徒たちが伝えたものに反する「ほかの福音」の宣教によっ

で、現代の教会は重く病んでいるのです。

しかし使徒たちの宣教によれば、天にあげられたキリストは「生きている者と死んだ者を裁くために」(IIテモ 4:1) 再び来られます。その出現とその御国とを思うことは、主の昇天を記念する今朝のミサの主題であります。

3. ヘブ

「二度目には、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださる」(v.28) キリストに希望を置くことは、21世紀の教会の最大の課題であります。ミサの中で会衆が唱える主の祈りに、司祭は応えて祈ります。「わたしたちの希望、救い主イエス・キリストが来られるのを待ち望んでいます。」これこそは教会が使徒の時代から受け継いで来た「公に言い表した希望」(v.23)です。「約束してくださったのは真実な方なのですから」(v.23)、「信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか」(v.22)。私たち教会は、御子の血によって贖われ、罪を赦された神の民なのですから。

「主の昇天に、わたしたちの未来の姿が示されています。キリストに結ばれるわたしたちをあなたのもとに導き、ともに永遠の命に入らせてください。」(今朝の集会祈願)

アーメン、ハレルヤ。

5月30日 聖霊降臨の主日

使 2:1~11 ロマ 8:8~17 ヨハ 14:15-16,23-26

1. ヨハ

vv.15-16 「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。」

ヨハネ文書に独特な「掟を守る」という表現は、イエス・キリストの霊である聖霊によって導かれて育って行った初代教会の姿を、現代のキリスト者である私たちに描写して見せてくれます。それは「互いに愛し合う」(ヨハ 13:34 他) ことであり、共にミサをささげるために結束している信仰集団の姿でありました。キリストの贖罪のいけにえを記念するミサこそが、この集団の唯一の結束の源泉であったことを、私たちは聖書から読み取ることが出来ます。聖霊はそのような教会を生み出し、育て、守る弁護者として、イエス・キリストが父のもとから遣わされたのであり、歴史の教会はこの同じ聖霊によって今日に至るまで守られて来ました。そのような訳で、聖霊降臨の主日は、教会が神の霊、キリストの霊の支配を再確認し、これ以外のこの世の霊や時代の霊からの誘惑や挑戦を退ける決意を新たにすべき祭日であります。

2. 使

この使徒言行録からの朗読箇所の中で、最も大切な部分は次のところです。

v.11 「(いろいろな国から来た者たちがいるのに)、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」

この日使徒たち一同に聖霊が降ると、多くの国の人々はそれぞれ自分たちの国の言葉で使徒たちから福音を聞くことが出来ました。聖霊が使徒たちの宣教を人々に聞かせ、かつ理解させたのでした。

キリストの霊である聖霊によって導かれて行った初代教会の姿のもう一つの要素は、そこで「神の偉大な業」が語られ、聞かれることが、群の人々の信仰の源泉であったということです。誤解してはならないのは、これは漠然とした一般論としての神賛美ではなくて、使徒たちの一人であるパウロの言葉を借りれば、「わたしの福音すなわちイエス・キリストについての宣教」(ロマ 16:25)、しかもそれだけが唯一の福音であるということです。

実にキリストの福音、それも十字架につけられたキリストの福音が、使徒継承によって正しく受け継がれ、正しく語られることが、現代の教会の課題であることを思い起こしましょう。聖霊降臨の主日は、教会がその原点に立ち帰る決意を新たに祭日でもあります。

3. ロマ

v.9 「神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく霊の支配下にいます。キ

リストの霊を持たない者は、キリストに属していません。」

v.14 「神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。」

聖霊を受けるためには、洗礼が必要であると、教会は教えて来ました(使 2:38 参照)。「人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して(すなわち洗礼を受けて)救われる」(ロマ 10:10) という主張は、現代の教会が使徒継承によって受け継いで来た真理であります(教会憲章 14)。

洗礼を受けるには先ず信仰が必要です。そして信仰はキリストの福音を聞くことによって始まります(ロマ 10:17)。ですから、現代の教会が聖霊の賜物によって豊かにされるには、何よりもキリストの福音が、使徒たちが伝えた通りに、再び生き生きと宣教される必要があります。聖伝と聖書によって伝えられて来た福音は、神の霊によって導かれる教会こそが御国を受け継ぐ「キリストと共同の相続人」(v.17) であると宣言しています。

4.

現代の教会はすでに久しく使徒たちの宣教とは無縁になり、十字架のキリストの福音は「ほかの福音」(ガラ 1:7) に場所を譲って、聖霊の支配ではなくて肉の支配が実権を奪ったかのような状態の中にあります。1530年にプロテスタント側で起草された「アウグスブルク信仰告白」は、教会を定義して、「福音が純粋に説教され、キリストのいけにえの奉献が(その語られた)福音に従って正しく執行される」と述べたことは、有名な話です。現代の教会がどんなに悲惨な状態の中にあるとしても、それでもキリストの霊である聖霊が私たちに訪れてくださるのは、ことばの典礼と感謝の典礼を通してであることを、私たちは見失ってはなりません。

主の羊たちが御言葉によって命を受けるために、この“聖書の学び” がささやかな奉仕となることを祈っています。栄光が神にありますように。 アーメン、ハレルヤ。